

退任挨拶

前沖縄県医師会 理事

(東部クリニック) 比嘉 靖



12年間の理事就任中は、当初は介護保険担当及び在宅医療担当として、また、後半は医療情報システム担当のお仕事をさせて頂きました。未熟な私に対し、会員の皆様、医師会理事、事務局職員のご理解、ご指導、ご協力頂き感謝申し上げます。

県医師会では、毎週火曜日に理事会が開催されます。そこで扱われる議題は広範囲に及び、毎回多くの学びがありましたが、自身の理解度も試される緊張感ある会議でした。ここで報告・協議される事業の数々は、事務局の皆様方の献身的なご協力のもと文書等にまとめられておりました。ここに心から御礼申し上げます。

特に後半のシステム担当としての始まりは、当時医療界に響き渡った「医療のIT化」の流れの中、介護保険分野・医療分野での紙ベースで始まったばかりの「連携パスのIT化」・「多職種連携」を担当することでした。システム構築を進める中、日本各地のIT先進的地域への視察や、県内拠点医療施設や各地区医師会での説明会などの活動がありました。こうした複数分野を掛け持つ状況を当時の安里前会長の御配慮によりシステム担当理事としての肩書を頂き、医療・多職種連携システムの立ち上げに集中出来る環境を与えて頂きました。その後は、「長寿県復活」を提唱された安里前会長のご指導の下、各地区選出の医師会理事の方々、各地区医師会、看護協会、薬剤師会、県庁をはじめとする行政、その他の関連団体の温かい支援のもと連携システムを「おきなわ津梁ネットワー

ク」へと進化させることができました。まだ発展途中のシステムではありますが、医療連携のためのEHRシステム、地域医療を支える多職種連携ツール、救急医療施設の逼迫解消を推進する施設間紹介ツール、極端な医療環境偏在下での緊急搬送の補助ツール、システム内に蓄積されたデータの分析・研究による沖縄県民の「長寿復活」への貢献などが期待できるシステムだと信じております。システム自体は今後の医療DXの発展により進化するはずですが、大切な事は、ユーザーである医療界、行政、全県民が、「長寿県復活」に向け、その時点での有効なツールを一丸となり活用する意識を共有する事であると考えております。現在、「おきなわ津梁ネットワーク」は多くの医療関連施設、団体の御参加・御協力を頂き、全国的にも自立運営が出来ている数少ない医療連携システムとなっており、今後の運営にこれまで以上の注力が必要な状況だと考えております。

今回システム担当理事を辞任する事となり、田名会長、新たに担当理事を引き受けて頂いた富名腰理事、医師会事務局、その他の協力頂いている方々へ大変なご負担をおかけする事となりました。今後は地域医療の一線でのユーザーとして沖縄県医師会事業である「おきなわ津梁ネットワーク」への活動に協力していきます。これまで長きに渡りありがとうございました。最後に県医師会のますますのご発展を祈念しております。